

問1 九州地方の各県の産業について述べた次の説明のうち、宮崎県と福岡県の特徴を正しく組み合わせたものはどれですか。（2023

年 三重公立入試 類似）

- |   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 1. 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。 | 2. 宮崎県は平野部を中心に稲作が盛んで米の産出額が九州で最も多く、福岡県は畜産が県内の農業の大部分を占めている。 | 3. 宮崎県は工業出荷額が九州地方の中で最大規模であり、福岡県は農業産出額において米の産出額が畜産を上回っている。 | 4. 宮崎県と福岡県はともに農業産出額のうち米の割合が最も高く、工業については佐賀県の出荷額が九州で最大である。 |
|---|---|---|--|

問2 九州南東部の宮崎県において、冬でも雪がほとんど降らない温暖な気候を活かし、他の地域よりも野菜の成長を早めて出荷時期をずらすことで、高い利益を得るために行われている栽培方法を何というか。（2019年 北海道公立入試 類似）

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 促成栽培 | 2. 抑制栽培 | 3. 近郊農業 | 4. 有機農業 |
|---------|---------|---------|---------|

問3 九州地方の北部、福岡県から佐賀県にかけて広がる平野について述べたものとして、最も適切な名称を選びなさい。この平野は有明海に面しており、九州地方を代表する大規模な稲作地帯として知られています。（2023年 福島県公立入試 類似）

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 筑紫平野 | 2. 宮崎平野 | 3. 熊本平野 | 4. 仙台平野 |
|---------|---------|---------|---------|

問4 九州地方南部の鹿児島県から宮崎県にかけて広がる、過去の巨大な火山活動による噴出物が厚く積み重なって形成された広大な台地を何と呼びますか。（2019年 三重公立入試 類似）

- |          |         |         |         |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. シラス台地 | 2. カルデラ | 3. 甲府盆地 | 4. 筑紫平野 |
|----------|---------|---------|---------|

問5 宮崎平野や高知平野で行われている促成栽培には、生産者にとってどのような利点があるか。最も適切な説明を選べ。（2023年

青森県公立入試 類似）

- |                                      |                                       |                                     |                                   |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 他の地域が出荷できない時期に出荷することで、高い価格で販売できる。 | 2. 消費地である大都市に近いため、新鮮なまま輸送コストを安く抑えられる。 | 3. 夏の涼やかな気候を利用して、暑さに弱い野菜を品質良く栽培できる。 | 4. 広大な土地を利用して、大型機械を使った効率的な生産ができる。 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|

問6 沖縄県と全国の就業者数比率を比較したとき、沖縄県の産業構造に見られる顕著な特徴として正しいものはどれですか。なお、全国の製造業の割合が15.8%であるのに対し沖縄県は5.0%、医療・福祉の割合は全国の12.5%に対し沖縄県は15.7%という統計結果に基づきます。（2022年 沖縄公立入試 類似）

- |                                   |                                   |   |  |
|-----------------------------------|-----------------------------------|---|--|
| 1. 製造業の割合が全国に比べて大幅に低く、第3次産業の割合が高い | 2. 第2次産業の割合が全国平均を大きく上回り、工業化が進んでいる | 3. 第1次産業から第3次産業まで、すべての就業者比率が全国平均と一致している | 4. 医療・福祉の就業者数が極端に少なく、製造業が県内最大の雇用を生んでいる |
|-----------------------------------|-----------------------------------|---|--|

問7 農産物の生産統計において、サトウキビの生産量や、マンゴー、菊（電照菊）の出荷量が全国トップクラスである都道府県はどこか、名称を答えなさい。（2014年 沖縄公立入試 類似）

- |        |        |         |        |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 沖縄県 | 2. 宮崎県 | 3. 鹿児島県 | 4. 高知県 |
|--------|--------|---------|--------|

問8 九州地方に位置する宮崎市の気候について、降水量が多くなる背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。地形や風の影響に着目して答えなさい。（2023年 岡山公立入試 類似）

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 1. 夏季に太平洋から吹き込む湿った季節風が九州山地に遮られ、上昇気流が発生して雨を降らせるため。 | 2. 冬季に日本海から吹き込む冷たく湿った季節風が九州山地にぶつかり、雪や雨を降らせるため。 | 3. 年間を通して大陸からの乾燥した季節風が吹き込むが、黒潮の影響で雲が発達しやすいため。 | 4. 瀬戸内海沿岸と同様に山地に囲まれているため、季節風の影響を受けにくく、年間を通して降水量が少ないため。 |
|---|--|---|--|

問9 北九州工業地帯は、明治時代に官営八幡製鉄所が建設されて以降、日本の重工業を支えてきました。この地域の産業構造の変遷と現状について述べた文として、正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

- |  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| 1. 豊富な石炭資源を背景に、現在も鉄鋼業を中心とした金属工業の割合が製造品出荷額の過半数を占めている。 | 2. 近年は自動車工場などの進出が進み、金属工業に代わって機械工業の割合が最も高くなっている。 | 3. 瀬戸内工業地域と同様に、大規模な石油化学コンビナートが形成され、化学工業が主要な産業となっている。 | 4. 沿岸部の埋め立て地に大規模な製粉・製糖工場が集まり、食料品工業が産業の柱へと成長した。 |
|--|---|--|--|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 宮崎県は農業産出額において畜産の占める割合が非常に高く、福岡県は九州地方で最大の工業出荷額を誇っている。	九州地方南部では、シラス台地などの地形的条件を活かした畑作や畜産が発展しており、特に宮崎県は肉用牛、豚、鶏などの畜産業が農業産出額の多くを占めているのが特徴です。一方、九州地方北部の福岡県は、北九州工業地帯やその周辺の自動車産業などの集積により、九州で最も大きな工業出荷額を記録しています。佐賀県は九州の中では比較的、農業産出額に占める米の割合が高いという特徴がありますが、工業出荷額が最大なのは福岡県です。
問2	<b>答え 1</b> 促成栽培	宮崎県などの温暖な地域では、冬から春にかけて野菜を出荷できるよう、ビニールハウスなどで成長を促進させる促成栽培が行われます。これは、需要が高く供給が少ない時期に出荷することで、市場価格が高い状態での販売を目的とした工夫です。
問3	<b>答え 1</b> 筑紫平野	福岡県から佐賀県にかけて広がる筑紫平野は、九州地方最大の平野であり、有明海に面しています。古くからクレーク（人工の水路）や干拓地が整備され、大規模な稲作が行われてきた歴史を持つ、九州を代表する穀倉地帯です。
問4	<b>答え 1</b> シラス台地	九州地方南部には、過去の火山活動に由来する火砕流堆積物が広範囲に分布しています。この白っぽい砂状の土壌からなる台地は、水はけが非常に良く水持ちが悪いため、かつては稲作に不向きな土地とされてきました。そのため、現在でもサツマイモや茶などの畑作、あるいは大規模な畜産が盛んな地域となっています。
問5	<b>答え 1</b> 他の地域が出荷できない時期に出荷することで、高い価格で販売できる。	促成栽培は、冬でも暖かい気候やビニールハウスを利用して野菜を早く育て、他の産地からの出荷が少ない冬から春にかけて出荷することで、高値での販売を狙っています。「輸送コスト」は近郊農業、「冷涼な気候」は抑制栽培、「大型機械」は北海道などの農業の特徴です。
問6	<b>答え 1</b> 製造業の割合が全国に比べて大幅に低く、第3次産業の割合が高い	沖縄県の産業構造は、全国平均と比較して第2次産業（特に製造業）の割合が極めて低く、一方で第3次産業の割合が高いという独自の特徴があります。2021年のデータでも、製造業の就業者比率が全国の3分の1以下であるのに対し、観光や生活に関連する第3次産業が経済の大きな柱となっていることがわかります。
問7	<b>答え 1</b> 沖縄県	亜熱帯特有の温暖な気候を活かした農業が盛んであり、サトウキビのほか、冬の夜間に電灯を照らして開花時期を調整する「電照菊」や、熱帯の果実であるマンゴーなどの栽培が特徴的です。宮崎県もマンゴーの生産で知られますが、サトウキビの生産量と比較すると、南西諸島に位置するこの都道府県が際立って高い数値を示します。
問8	<b>答え 1</b> 夏季に太平洋から吹き込む湿った季節風が九州山地に遮られ、上昇気流が発生して雨を降らせるため。	宮崎市は九州山地の東側に位置しており、夏に太平洋側から吹き込む湿った季節風がこの山地にぶつかると、多くの雨をもたらします。また、秋には台風の通り道になりやすいという地理的条件も重なり、年間降水量が非常に多いのが特徴です。これに対し、福岡市などの日本海側では冬の季節風の影響を強く受け、那覇市などはより南方に位置するため気温や降雨のパターンが異なります。
問9	<b>答え 2</b> 近年は自動車工場などの進出が進み、金属工業に代わって機械工業の割合が最も高くなっている。	北九州工業地帯は、かつては筑豊炭田の石炭と中国からの鉄鉱石を利用した官営八幡製鉄所を中心に、金属工業が圧倒的な割合を占めていました。しかし、エネルギー革命による炭鉱の閉鎖や産業構造の変化を経て、現在は自動車産業を中心とした機械工業が発展しています。製造品出荷額の内訳でも、機械工業が約4割を占め、金属工業を上回る構成へと変化している点が重要な特徴です。